

地域連携

企画者 札幌・すがた医院 岩永輝明

超高齢社会をもとに医療制度改革や介護情勢が変化する中で、医療完結から地域完結への変化、地域への関わりが、より求められる時代となっています。日本医師会長が「医療はまちづくり」と昨年表明されたことは記憶に残る言葉でした。厚生労働省も「治す医療」から「支える医療」への変換に触れており、我々セラピストも「病院」から「地域」への取り組みが求められています。

また、行政機関である市町村では、地域包括ケアシステムの構築が求められており、介護保険法の包括的支援事業として「在宅医療・介護連携事業」を行政が主体となり平成30年4月までに開始することとなっております。医療介護従事者の連携や協業がより一層深まることに加えて、地域づくりにおいては、地域住民の参加が不可欠であり、専門職以外との関わりも必要となっております。

しかしながら、我々セラピストが時代の変革に応じて、医療介護の多職種と、そして専門職以外の地域住民とともに「地域連携」を深めるきっかけをどのように作っていったらよいのでしょうか。

今回、地域支援に関わっているセラピストや医療介護専門職以外の方をお招きして、地域支援の実践報告会と座談会の2本立てで企画いたしました。

実践報告では、下記の3つの内容となります。

1つ目に「医療×防災」、「医療×商店会」をテーマに、室蘭市蘭北地区で家庭医と商店会・町内会の連携のパイプ役となり、交流拠点であるまちづくりサロンが生まれた報告です。まちづくりの視点から医療と他分野をつなげるには、どのようなヒントがあるかを学べる内容となっております。

2つ目に商店街や地域のお祭りなど地域住民も含めた活動をされており、ユニバーサル企画《車イスな僕らの音楽》、あさぶ商店街おしごとBAR企画、障がいアートの作品の普及とまちづくりなどに携わっておられる報告です。学生、高齢者、障がい者もノーマライゼーションで活動を共に楽しむヒントを学べる内容となっております。

3つ目に地域の医療介護職との連携をどのように地域でそして圏域内で仕掛けていけるか、「最期まで食べられるまちづくり」、北海道や市の事業を通じた医療介護多職種連携についての報告です。セラピストとしてどのような心構えで地域に出ていけるかを学べる内容となっております。

ワークショップを通して、作業療法士として各参加者がそれぞれの地域で医療介護従事者とどのように連携を深め協働していくか、また他職種や地域住民の方々とどのように「地域支援」を行うかの学びを深める機会となりましたら幸いです。

【登壇者】

- | | |
|--------------------------------|---------------------------------|
| ●NPO 法人フューチャー北海道 | 理学療法士 杉田恵子
防災士 櫻木正彦 |
| ●Earth Art Project1000@sapporo | 障がい福祉アート講師
地域コーディネーター 横山 和加子 |
| ●札幌・すがた医院 | 作業療法士 岩永輝明 |